

050101陸上貨物取扱業における死亡災害事例（1999-2022年）

年	月	発生時	死亡災害事例	起因物 (小)	事故の 型	労働 者規 模
2022	1	～ 14	フォークリフト（ピッカーリフト）の傍らで被災者が出血して倒れている状態で発見されたもの。災害発生後の運転席の高さが3.24mの位置にあったことから、運転席の位置からラックに移り、ラックから荷を取り、取った荷をフォークまたは搭乗スペースに置く際に荷と共に墜落したものと推定される。	222	1	30～ 49
2022	3	10 ～ 12	フォークリフト（最大積載荷重1.5t）を運転中、意識を失い倉庫の柱と激突し挟まれ被災したものの。	222	3	100 ～ 299
2022	4	～ 14	被災者はフォークリフトで倉庫内のフレコンバッグ（粉末クエン酸1トン入り、パレットごと4段積みのはい、高さ4m強）を出庫していた。隣の4段積みが出庫対象にもたれかかり運び出せない箇所の確認をしようと下車した時、当該もたれていた3・4段目が被災者の方に崩れ落ち、2.5m離れた位置で4段目の下敷きとなった。声を聞いた同僚が救出したが、骨盤・頸椎・右足の骨折等を負い、後日死亡した。	611	5	1～9
2022	6	～ 6	事業は4階建て物流センターの構内作業下請。被災者はリーチフォークリフト（積載荷重1.39t、リース車）で接車前のバースにトラック積み予定の荷（パレット積みラップ包装）を荷揃え中、荷を積載して後進時に高さ1mのプラットホームから同車ごと落ち、頭が同車ヘッドガードと床にはさまれた。	222	1	30～ 49
			事業場Aは物流センターの構内物流業務一式を受託する事業場Bの構内下			

2022	10	8 ～ 10	請。トラックバースにおいて、荷卸しに来た事業場Cのバンボデー13t トラックが後進でバースに接車し、下車した運転手が入出庫シャッターを 上げた時（接車約2分後）、車両背面とプラットホーム端部側面との間に はさまれている被災者を発見した。意識がなく搬送先病院で死亡。	221	7	30～ 49
2022	12	10 ～ 12	被災者が、倉庫内でリーチフォークリフトを運転し、パレットを取りに行 こうと走行したところ、リーチフォークが柱に激突し、被災者の腰部付近 がリーチフォークリフトと柱に挟まれることにより負傷し、死亡した。	222	3	10～ 29
2021	6	8 ～ 10	被災者が工場から補修テントに移動していたところ、後方からフォークリ フトに激突されたもの	222	6	50～ 99
2021	11	14 ～ 16	倉庫整理のため、フォークリフト（最大荷重2250kg）で段ボールに 梱包された冷凍庫（約55×60×100cm、37kg）をパレット1 段当たり8台3段重ね（高さ約7m）にして移動をしていたところ、荷崩 れを起こし、何らかの理由で運転席の外に出た運転手の頭部に激突したも の。	222	5	30～ 49
2021	12	12 ～ 14	市場から戻ってきたビール瓶をケースに入れて製造ラインへ運ぶコンベア において、被災者が以下の状態で挟まれていた。 ・コンベア上部にある ・モーターのベースに肩が当たっている ・モーターのチェーン部のカバー とビールケースの間に頭部が入っている ・当該ビールケースの後方の ビールケースに胴体に乗っている	224	7	100 ～ 299
2020	3	6 ～ 8	被災者はドライバー助手として4tトラックに乗車していた。荷主へ荷物 を運搬中に追い越し車線から走行車線へ車線変更する際に、走行車線後方 を走る大型トラックに自社の4tトラック後方部が接触後、4tトラック はガードレールを乗り越え横転した。備車依頼を行っているため、4tト ラックとドライバーは別事業場の所属である。ドライバーは軽傷であっ た。	221	17	30～ 49
		2	国道の片側2車線の上り線で、交差点の赤信号停車中の車列に10tト ラックが突っ込み、車列最後尾の被災者の3tボックス車、その前の28			100

2020	6	4	～	tトレーラー、その前の10tトラックの計4台の玉突き事故となり、被災者車両は運転席が大破した。被災者は全身打撲の多発外傷で当日、死亡が確認された。	221	17	～	299
2020	9	8	6	～	被災者ら4名は、埠頭に停泊中のスクラップ運搬船にスクラップを積込む作業に従事するため、社有車にて埠頭で待機中、日差しを避けるため同運搬船の日陰に移動して後退で駐車しようとしたところ、岸壁から海中に転落したもの。運転席以外にいた労働者3名は自力で車から脱出したが、運転席の労働者と脱出したうち1名が溺死したもの。	231	17	30～ 49
2020	9	8	6	～	被災者ら4名は、埠頭に停泊中のスクラップ運搬船にスクラップを積込む作業に従事するため、社有車にて埠頭で待機中、日差しを避けるため同運搬船の日陰に移動して後退で駐車しようとしたところ、岸壁から海中に転落したもの。運転席以外にいた労働者3名は自力で車から脱出したが、運転席の労働者と脱出したうち1名が溺死したもの。	231	17	30～ 49
2020	9	10	8	～	被災者は、フォークリフトを運転し、空パレットの移動作業を行っていたところ、前進操作中にプラットホーム端部からフォークリフトごと転落し、下敷きになり死亡したもの。	222	1	30～ 49
2020	10	12	10	～	H鋼（1.6t、7m）を工場の外へ運び出すため、工場内の天井クレーン（10t）を使用してH鋼を台車に乗せる作業を行っていた被災者が、頭部を負傷した状態で台車上に倒れていたもの（即死状態）。H鋼は地面に落ちており、目撃者はおらず。	211	4	1～9
2020	11	4	2	～	深夜、事業場4階倉庫フロアにおいて、オーダピッキングトラックを運転し、荷下ろし作業に従事していた被災者が倒れているところを発見された。発見当時、オーダピッキングトラックの運転席は地上約4メートルの高さに停止しており、被災者の傍には荷の段ボール箱が1箱落下していたことから、作業中に墜落したものと史料される。被災者は首の骨を骨折しており、後日死亡した。	222	1	50～ 99
		18			冷凍室内にてリーチ式フォークリフトを用いて食肉の搬出する作業を終えてパレット等の片づけ作業を行っていたとき、リーチリフトのフォークを			

2020	11	～	上げた状態で後進したところ、マスト上部が冷凍室の出入り口の上部に激突し、運転していた被災者が運転台から投げ出された。災害発生の5日後に死亡した。	222	3	10～ 29
2020	12	16 ～ 18	被災者は、トラックで運び込んだ金属を現場に降ろした後、荷台の後ろ扉を閉める作業中に荷台端部分との間に頭部が挟まれ死亡したもの。	221	7	10～ 29
2019	1	16 ～ 18	支店内にて作業請負を行っている被災者が倉庫内にて粉末が入っている500キログラムのフレコンバックの積み替え作業を1人で行っていたところ、4段に積まれた最上部フレコンバックとその隣の3段に積まれた最上部のフレコンバックが荷崩れし、被災者が一方のフレコンバックの下敷きになり、窒息により死亡した。	611	5	1～9
2019	2	12 ～ 14	5階建冷凍冷蔵倉庫内で荷役作業中、5階フロアから出火し火災が発生し、被災者は初期消火等を試みたため、逃げ遅れ2名が焼死、1名が負傷したもの。火災発生原因は、冷却装置更新工事（脱フロン化工事）に係るアーク溶接作業に起因するもの。	332	16	300 ～ 499
2019	2	12 ～ 14	5階建冷凍冷蔵倉庫内で荷役作業中、5階フロアから出火し火災が発生し、被災者は初期消火等を試みたため、逃げ遅れ2名が焼死、1名が負傷したもの。火災発生原因は、冷却装置更新工事（脱フロン化工事）に係るアーク溶接作業に起因するもの。	332	16	300 ～ 499
2019	2	14 ～ 16	高さ2.4mのパレットステージ上で、フォークリフトによりステージに上げた段ボールを別のパレットに移し替える作業を行っていた。荷揚げの際取り外したステージの端部の手すりを元に戻すことなく作業を行っていたところ、ステージの端部から墜落した。医療機関に搬送され、脳挫傷と診断を受け治療を行ったが、後日死亡した。ヘルメット、墜落制止用器具は使用していなかった。	416	1	1～9
2019	7	10 ～	フォークリフト（オーダーピッキングトラック）の傍で、被災者が頭部から出血して倒れている状態で発見されたもの。災害発生直後にフォークリ	222	1	100 ～

		12	フトの運転席が高さ約3mの位置にあったことから、運転席の位置でラックから荷を取ろうとした際に墜落したものと推定される。			299
2019	11	14 ～ 16	被災者は、事業場倉庫内で保管している鋼材を出荷準備するため天井クレーンを使用し移動させようと操作したところ、ペンダント操作を誤り自身の方向へ動かしてしまい鋼材に激突され、後ろ側に積んであった鋼材の上に押し上げられた。救急搬送されたが搬送先の病院で死亡した。	211	6	1～9
2018	1	12 ～ 13	4段に積み上げられたパレット積みの荷をフォークリフトで移動させようとしたところ、3段目と4段目の荷が崩壊、被災者はフォークリフト運転席より離脱しようとして4段目の荷（エアコン室内機30箱）の下敷きとなり死亡したものの。	611	5	30～ 49
2018	2	8 ～ 9	被災者がフォークリフトのカウンターウエイトの上に設置されたワイヤロープの位置を直そうと、カウンターウエイトの上に登っていたところ、ふらついて後ろ向きに倒れ地上まで落下し、一時心肺停止となった。その後、被災者は心肺停止蘇生後脳症と診断され、後日死亡した。所属事業場は、荷役作業に使用する道具の運搬業務のみを委託されたものである。	222	1	10～ 29
2018	5	6 ～ 7	センターにおいて冷凍製品の物流業務に従事していた被災者が、同センター2階冷凍庫において、フォークリフトに乗って意識を失っているところ、他の労働者に発見されてもの。発見後、救急搬送され、入院加療を行ったが、死亡した。	921	90	100 ～ 299
2018	7	16 ～ 17	構内下請の被災労働者は竹箒を使って倉庫内の清掃を行っている際に、ふらつきが認められたため、速やかにスポットクーラー前に寝かせるとともに、冷却剤や経口補水液等の処置が行われた。被災者は会話や自力での歩行が可能だったことから、病院には行かず、その日の夕刻に帰宅したが、翌日朝に自宅で死亡しているところを発見された。死因は熱中症だった。	715	11	1～9
2018	9	18 ～ 19	ピッキング作業の1ラインを請け負っている物流センターの体感温度30℃以上の倉庫内にて、2時間ごとの休憩で水分補給を行いながら商品仕分け作業をしていたところ、3回目の休憩後に被災者から体調不良の申出がなされ、休憩を延長していたが、動けなくなるとともに過呼吸状態とな	715	11	50～ 99

			り、救急搬送され、後日熱中症で死亡したものの。			
2018	11	10 ～ 11	当該事業場内倉庫において、高さ約3.8メートルのフォークリフトのプラットフォームに乗って、商品をピッキングしていたところ、誤って墜落し、頭部を強打して被災したものの。	222	1	30～ 49
2017	1	10 ～ 11	被災者が倉庫内で荷（フィルムロール）の積み卸し作業をフォークリフトで行っていたが、作業中にフォークリフトの積み荷が崩れ、下敷きになった。	222	5	1～9
2017	5	4 ～ 5	帰宅途中、運転中に具合が悪くなり、道路の中央で意識がない状態で病院に運ばれ、心不全で死亡した。	921	90	300 ～ 499
2017	8	6 ～ 7	フォークリフトを操作して荷のピッキング作業をしていた被災者は、後進中のフォークリフトごとプラットフォーム（高さ99cm）から墜落し死亡した。	222	1	50～ 99
2017	8	4 ～ 5	被災者は線材梱包ラインの最終工程であるラベル貼りを終え、梱包線材を自動搬送台車によりクレーンでの吊り位置まで搬送するため搬送台車の起動ボタンを押した際に、台車上にカッターを落としていることに気付き、取りに行こうと台車の稼働領域に立ち入ったところ、荷をクレーン吊り位置に預け終わって戻ってきた台車の車輪に右足をひかれた。	169	7	1000 ～ 9999
2017	9	14 ～ 15	被災者は、事業場構内でコンテナの荷役作業に伴うトレーラー等の車両の誘導業務を行っていた。被災者は、待機中の移動式クレーンに構内侵入を伝えに行った。その後の被災者の行動経路は不明であるが、荷降ろしのために向きを変えようと旋回（前輪を軸に後輪を駆動させ転回）していたフォークリフト（24トン）の後部と接触し、倒れたところを当該リフトの後輪でひかれた。	222	7	10～ 29
2017	12	10 ～ 11	と畜場において、一部加工された枝肉を冷蔵庫からトラックに積み込む際に使用する枝肉搬入コンベアの先端部のベルトプーリー部に、被災者が着用していたヤッケの一部が巻き込まれ、宙づりで頸部を圧迫された状態で発見された。	224	7	10～ 29

2017	12	10 ～ 11	重量2.5tの旋盤をトラックから降ろし、指定場所へ置く作業中、当該旋盤をジャッキで上げ、旋盤の下に設置した台木を鉄製ブロックに入れ替える際に旋盤が転倒し、作業員2名が下敷きとなった。	361	4	30～ 49
2016	2	9 ～ 10	空のフレコンバッグの仕分けをする作業場で、フォークリフト運転者が空のフレコンバッグが入ったコンテナ（約110kg）5個を積み上げて仮置きした後、上4個を後方に運ぼうとフォークリフトで持ち上げたところ、コンテナがバランスを崩してフォークリフト前方に倒れ、仕分け作業を行っていた被災者の頭上にコンテナが落下した。	611	5	10～ 29
2016	3	13 ～ 14	被災者は、橋形クレーン（5.07t）を使用し、トレーラーヘシートパイル（8枚1山（約4t））の積み込み作業を行っていた。トレーラーの運転手が玉外し後、玉掛けワイヤー（4m）をクレーンのフックにのの字掛けにした。次の山を取りに行くため、被災者がクレーンを走行させていたところ、ヤード内に段積みされていたシートパイル2枚が落下し、被災者に激突した。	211	4	10～ 29
2016	3	1 ～ 2	長時間労働により精神障害を発病し、自宅で自殺をした。	921	90	1～9
2016	3	14 ～ 15	パレタイザー（商品の入った箱をパレットに自動で積みつける機械）がエラーにより停止した為、被災者含め2名で復旧作業を行っていた。復旧確認の為にパレタイザーを動かした際に、被災者がパレタイザーのウェイトとパレタイザーの柱に挟まれた。	169	7	100 ～ 299
2016	4	13 ～ 14	倉庫内において、ピッカー車（バッテリー式フォークリフトで、運転席がフォークとともに上下するもの）から、約3m下の床に墜落した。	222	1	10～ 29
2016	7	17 ～ 18	2階の冷凍倉庫内で、立ったまま運転するフォークリフト（リーチ式）を用いて荷物の整理を行っていた労働者が、フォークリフトの操作台とフォークリフトの後ろに設置されていた棚の間に背中から挟まれ、胸など	222	7	100 ～ 299

			を強く打って死亡した。			
2015	2	10 ～ 11	トラックターミナル内で仮眠を取っていたところ、14時30分頃に同僚が異変に気づき救急搬送された。「心筋梗塞」と診断され、同日16時12分に死亡した。	921	90	30～ 49
2015	5	15 ～ 16	被災者を含む作業員5名（運輸会社の労働者1名と合同会社の労働者4名）はフォークリフトを使用し、鉄板の移動作業をしていた。被災者は、フォークリフトが抱えた鉄板を下す場所（床面）に、当該鉄板を支えるためのりん木を並べ、りん木の位置を調整をしていたところ、被災者の後方にある扉に立て掛けられていた重さ約1tのバーインコイルが被災者の上に倒れ、下敷きとなったもの。	611	5	30～ 49
2015	12	8 ～ 9	被災者は、隣接の冷凍倉庫会社の冷蔵庫に保管してある商品を受け取るため、同社に書類を提出して、元の作業場所に戻ろうとした際、傾斜している駐車場に駐車して運転手が乗車していなかった別会社の2トン保冷車が動きだし、被災者に激突したもの。	221	6	1～9
2015	11	18 ～ 19	被災者等はフォークリフトを使用してドーリーから積み荷（ドイツからの空輸便）を降ろす作業を行っていた。積み荷の中央には、パレット付けされた荷の間に挟み込んでキャスター付きの折りたたみ式トランポリンが積み込まれていたが、当該トランポリン周辺の片側の積み荷が降ろされた際に、キャスターが動き、ドーリーの台座のすき間の溝に脱輪した後に倒壊し、被災者が下敷きとなったもの。なお、被災者は技能実習生であった。	229	5	100 ～ 299
2015	6	14 ～ 15	倉庫内において天井クレーンを使用して平鋼の束（幅26cm、高さ17.1cm、長さ5.5m、重量約1.9t）の移動作業を行っていたところ、5段に積み上げた平鋼の束の上から3段分が玉掛けワイヤーを外す作業を行った後、移動していた被災者の方に崩れてきて、被災者が崩れた平鋼の束に挟まれたもの。	611	5	1～9
2015	10	10 ～ 11	コンテナトレーラーと合板材を搬出するための作業台に挟まれた災害コンテナトレーラーを後退させ作業台へ接続する作業を行う際被災者がトレーラーに挟まれたものと思われる。	221	7	10～ 29

2015	10	21 ～ 22	天井クレーンを用いて、パレット台車に熱延鋼板を積み込み、玉外しを行った後にクレーンを走行させているときに、玉掛用具であるハッカーが積み込んだ熱延鋼板に接触し（推定）、積み込んだ熱延鋼板の上部5枚（2.6t）が荷崩れを起こし、被災者に激突した。	372	5	1000 ～ 9999
2014	1	5 ～ 6	翌日の勤務に備え、事業場内に駐車した自家用車の車内で仮眠を取っていた被災者は、事業場敷地内の簡易トイレのそばで倒れているところを発見され、虚血性心疾患により、死亡した。死亡前1ヶ月間の時間外労働は、100時間を超えるものであり、死亡前2ヶ月間の平均の一月当たりの時間外労働は、90時間を超えていた。	921	90	1～9
2014	6	15 ～ 16	被災者がフォークリフト運転者に対し搬器を下すように合図をし、搬器を下した際、被災者が意識を失った状態で倒れ、脳挫傷により死亡した。	222	1	1～9
2014	6	12 ～ 13	軌道装置の合流点にて、被災者が運転していた機関車が、隣接する線路に止められていた貨物車に激突し、機関車と貨物車の間にはさまれた。	223	7	300 ～
2014	8	11 ～ 12	清掃作業中、トイレ内にて、ズボンを膝まで下げ、壁に倒れ掛かった状態の被災者が同僚に発見された。熱中症により死亡した。	715	11	10～ 29
2014	8	19 ～ 20	自動車を走行中、ハンドル操作を誤り、中央分離帯に衝突。後続車に激突され、死亡した。	231	17	50～ 99
2013	11	13 ～ 14	大豆貯蔵用サイロ（高さ30m・直径7.4m、RC造）下部取り出し口から大豆を取り出す作業中、大豆の出が悪くなったため、取り出し口付近上方に設けられた点検口を開け、下方に溜まった大豆を棒で突き落とした直後に、サイロ内部で爆発が起こり、サイロから20m付近で待機していた被災者の頭部に崩壊したサイロのコンクリート片が当たり、搬送先の病院で死亡した。	418	14	10～ 29

2012	7	21 ～ 22	ノロ処理場において、被災者は冷却後のノロを移動するためトラクター・ショベル（機体質量9,150kg）を運転し、駐機場から処理場に移動した。同僚がラガー車でノロを運んできた際、ノロ冷却に使用した水を貯めておくピットにトラクター・ショベルが転落しているのを発見し、被災者を捜索したが発見できないため警察に連絡。警察等が被災者を発見したが、既に死亡していた。	141	1	30～ 49
2012	8	15 ～ 16	被災者は食品倉庫内作業場にて仕分け作業を行っていた際、当該作業場所に配送業者が仮置きしていたフォークリフトを運転中、フォークリフトのフロントピラーとラックの支柱に頭部をはさまれ被災した。	222	7	100 ～ 299
2012	7	6 ～ 7	社用送迎車両を運転して空港内駐車場まで行った後、ロッカー室に向かうべく歩行中、横断歩道上で右折してきたトラックにはねられ、搬送先の病院で脳挫傷により死亡した。	221	6	300 ～
2012	2	15 ～ 16	被災者は、13 tトラックの荷台の後方で、開いていた観音開きの後部扉から飛来落下したコンパネ板（木製、900mm×1800mm、厚さ8mm、1枚あたり重量10kg）13枚の下敷きになり、搬送先の病院で死亡した。	379	5	100 ～ 299
2011	10	9 ～ 10	設備の搬出、運搬のため、フォークリフト（最大荷重1.5トン）を運転していた被災者は、運転席を離れてマストとヘッドガードの間で何らかの作業をしていたところ、リフトレバー（フォークを上昇、下降させるレバー）及びティルトレバー（マストを傾斜させるレバー）に誤って触れ、マストが上昇及び運転席側への傾斜をしたため、マスト上部の横架材とヘッドガード前部フレームとの間に頭部を挟まれ、被災した。	222	7	1～9
2011	6	3 ～ 4	事業場北側のホームへ到着した20トン保冷車の運転手が、荷台上の全ての荷を降ろした後に、荷台の扉を開けたまま、事務所へ配送完了の報告に出向いた。この間にホーム上で別の作業を担当していた被災者が、荷台へ入り込んだ。運転手は事務所から戻り、荷台の確認をせず、扉を開けたまま事業場南側の燃料スタンドへ時速約25kmで移動したところ、荷降ろしたホームから約65m離れた地点で被災者が荷台から転落した。	221	1	300 ～
			被災労働者は、オーダーピッキングトラックを用いて、ピッキング作業			

2011	2	13 ～ 14	中、ラック3段目から、ダンボール1ケースをピックアップする際に、運転席床面高さ約3メートルから、墜落したもの。オーダーピックアップラック運転席には、取り外し可能な手すりが両脇と正面に設けられているが、正面の手すりは、使用されていなかった。また、被災労働者は、安全帯は着用していたものの、使用していなかった。	222	1	50～ 99
2011	4	8 ～ 9	港湾倉庫に設置されるコーン等の穀物飼料が保管されているコンクリート製サイロ（3m×4m 深さ5m）内部において、飼料の増量保管する空間を確保するため、作業員3名で砂山状に堆積された穀物飼料を均していたところ、別作業員が当該飼料をサイロから取り出すために下部排出口を解放したため、内部にいた1名は梯子につかまり無事であったが、他の2名が流出する当該飼料に飲み込まれ、埋没し胸部圧迫により死亡したものの。	418	1	10～ 29
2011	4	8 ～ 9	港湾倉庫に設置されるコーン等の穀物飼料が保管されているコンクリート製サイロ（3m×4m 深さ5m）内部において、飼料の増量保管する空間を確保するため、作業員3名で砂山状に堆積された穀物飼料を均していたところ、別作業員が当該飼料をサイロから取り出すために下部排出口を解放したため、内部にいた1名は梯子につかまり無事であったが、他の2名が流出する当該飼料に飲み込まれ、埋没し胸部圧迫により死亡したものの。	418	1	10～ 29
2011	9	18 ～ 19	トラックで産業道路の上り線を走行中に苦しくなり、車道左側に臨時停車し自ら119番通報したが意識がなくなり、救急隊到着後には心肺停止状態で、病院へ搬送されたが死亡が確認された。平成24年2月21日支給決定	921	90	10～ 29
2011	5	14 ～ 15	物流倉庫内で、仕分けした製品の運搬のため、製品ラックの間（通路）をフォークリフト（リーチフォーク）で運行中、方向転換をするため製品ラック方向にバックしていたところ、製品ラックに置かれた積荷パレット（重量約360キログラム）に激突、フォークリフトとパレットの間に挟まれ、胸部圧迫により死亡した。	222	3	30～ 49

2010	12	8 ～ 9	被災者は、事業場の敷地内にある製品置場において、トラックの荷台の紙製品（重量約1 t）を横持ち作業するため、フォークリフトを運転し、トラックの荷台の紙製品をクランプ（アタッチメント）で挟み、一旦左後方にバックした後、紙製品を挟んだ状態でリフト（上昇）させながら右旋回動作で前進していたところ、フォークリフトの安定度が失われて転倒し、ヘッドガードの支柱の下敷きとなり死亡したもの。	222	2	10～ 29
2010	11	16 ～ 17	荷の検品作業のため倉庫内に入ろうとしたところ、電動式大扉が故障していたため、非常用扉を開け、被災者Aが倉庫内に5～6 m立ち入ったところ、倒れた。続いて被災者Aの様子を見に行った被災者Bが被災者Aを発見し、救援を呼んだ直後、被災者Bも非常用扉付近で倒れたもの。救急搬送されたが2名とも死亡した。倉庫内の荷（フレコンバック約320袋に入った醤油粕）が酸素を消費し、酸素欠乏場所となっていた。	714	12	1～9
2010	11	13 ～ 14	コンビニエンスストアの各店舗から回収された段ボールをリサイクルセンター内の圧縮機で梱包する作業中、被災者は圧縮機のホッパー内に誤って混入したプラスチック容器を取り除くため、電源を切らずにホッパー内に立ち入ったところ、ホッパー内の側面から押し出されるプレスラムとホッパー内の刃に両足を挟まれて膝付近から切断された。ホッパー内でうつ伏せに倒れているところを同僚が発見し救急車で病院に搬送されたが死亡したもの。	169	7	30～ 49
2010	11	10 ～ 11	被災者は倉庫においてロールクランプを運転する労働者2名の積み込み作業の作業指揮を行っていたところ、バック走行してきたロールクランプの運転者が後方をよく確認しておらず、ロールクランプに接触されて被災者が転倒し、コンクリート床面に頭を強打したもの。	222	6	1～9
2010	11	7 ～ 8	トラック運転手である被災者は、運送先事業場構内において、荷役で使うフォークリフトに乗車（使用）する前に、エンジンをかけ、マストと車体フレームの間に乗り、ヘッドガード上に雨天で溜まった水を雑巾で拭き取る作業を行っていたところ、マストの操作レバーに何らかの原因で被災者の体の一部が接触し、本体側に動き出したマストと車体フレームの間に腹	222	7	10～ 29

			部を挟まれ死亡した。			
2010	6	15 ～ 16	被災者が、事業場構内においてフォークリフトを運転中、双方の前方不注意により、交差点で左側から来た8 tトラックと衝突し、フォークリフトから投げ出され、転倒したフォークリフトのヘッドガードと地面の間にはさまれ、死亡した。	221	6	1～9
2010	4	5 ～ 6	営業所の倉庫内で、トラック荷台の後ろに飲料水等の荷物が積まれた手押し台車の下敷きになって死亡している被災者を従業員が発見したものである。荷降ろし作業中に誤って、台車の下敷きになったとみられる。	611	4	100 ～ 299
2010	2	17 ～ 18	被災者は、フォークリフトを充電するための所定の位置（約8度のコンクリート斜面のスロープ）で、口から血を出して倒れているのを発見された。被災者の傍にあったフォークリフト（カウンターバランスフォークリフト、電気式、最大荷重1.5 t）は、スロープ下の壁へ激突し停止した状態であった。被災者を発見した時、フォークリフトの電源スイッチは入っておらず、サイドブレーキがかかっていなかったことから、被災者が充電をするためフォークリフトを降りたところ、サイドブレーキが完全にかかっていなかったため、フォークリフトが後退し挟まれたとみられる。	222	7	30～ 49
2010	2	8 ～ 9	被災者を含め5名で、肥料の入ったフレコンバック（乱袋、重量約1 t）の詰め替え作業において、1台のフォークリフトでホッパー（鉄製、重量約330 kg）を上げ、もう1台のフォークリフトで同フレコンを吊り上げながら、ホッパー上からカッターで切ったところ、塊となった肥料が落下し、その反動でホッパー側のフォークリフトが前方に傾き、ホッパーを爪に固定していなかったためホッパーが滑り落ち、下敷きとなったもの。	222	6	10～ 29
2009	6	16 ～ 17	工場の原料倉庫内において、仮置きした鋼鉄コイル（外径82cm、内径48.5cm、幅1.07m、重量約2.1t）付近に、無線操作式天井クレーン（定格荷重22t）で別の鋼鉄コイル（外径78cm、内径49cm、幅1.165m、重量約1.8t）の積み付け作業を行っていたところ、当該鋼鉄コイルが被災者に激突し、仮置きしていた鋼鉄コイルとの間にはさまれた。	611	6	30～ 49
			屋外製品ヤードにおいて、クレーンでトラックに3本の鋼管を積み込んだ			

2009	9	14 ～ 15	後、助手席側のおおりを閉めようとしたが、台木がおおりに当たって閉まらなかったため、台木の位置を修正しようと被災者は別の台木で叩いていたところ、積み込んだ鋼管（1410kg、800A×7500mm）2本が転がり落ち、被災者に激突した。なお、鋼管の転位を防止するため、2箇所にくさびが設けられていた。また、路面は助手席側に傾斜していた。	611	5	100 ～ 299
2009	4	14 ～ 15	被災者は、入庫ホーム上で、飲料入りケースをベルトコンベヤーに投入する準備作業中に足を踏み外してホーム下に転落した。	418	1	100 ～ 299
2009	1	22 ～ 23	トラクター（トレーラー（台車）の牽引車）の運転者である被災者がトラクターを傾斜路に停止させ、作業のため降車したところ、トラクターが逸走し始めたので、被災者は逸走したトラクターを停止させるため、運転席に乗り込もうとしてトラクターの右前輪に巻き込まれた。	221	7	30～ 49
2009	1	17 ～ 18	資材置場での作業が終了し、事業場へ戻るために、25tの移動式クレーンを誘導していた被災者が、公道を走行していた乗用車にひかれた。	231	17	1～9
2009	7	9 ～ 10	客先に家具の配送を行い、玄関の外の通路で家具から解いた段ボール等を回収するとき、後ろ向きに倒れた。	921	2	1～9
2008	11	13 ～ 14	資材置場で鋼管杭(直径80cm、長さ15m、重さ2.6t)4本をトレーラーに積み込む作業をしていた。3段に積まれた鋼管杭から、2段目の鋼管杭をつり上げるためにハッカーを用いて玉掛け作業中、鋼管杭が荷崩れを起こして転がり落ちた。玉掛け者であった被災者は、鋼管杭から飛び降りたところを転がり落ちた鋼管杭にひかれて死亡した。	611	5	10～ 29
2008	8	10 ～ 11	梱包がほどけたスリットコイル（板厚1.6mm、板幅75mm、重量569kg）をフォークリフトの爪を利用してスリットコイルの穴に通して修正作業を行おうとしていたところ、背後から別のスリットコイル（板厚1.4mm、板幅153mm、直径1300mm、重量1377kg）が倒れて下敷きとなり死亡した。	611	5	30～ 49

2008	3	10 ～ 11	エレベーターのない5階建住宅へ約10kgの商品を届けに階段を上っていたところ、2階から2、3段上ったところでバランスを崩して踊り場へ転落した。	413	1	1～9
2008	3	13 ～ 14	社用車（軽ワンボックス）で荷物の配送中、自動車道の走行車線から中央分離帯に激突して車が横転して死亡した。	231	17	10～ 29
2008	7	13 ～ 14	事業場構内でクレーン積載形の4tトラックに荷物（プレカット材）を積み込んだ後、同僚1名と共に荷締め作業を行っていた。被災者は、積まれた荷物の上（地上高さ約2.5mの位置）で当該作業をしていたところ墜落して死亡した。	221	1	10～ 29
2008	12	15 ～ 16	ふるい分け工場内において、被災者と同僚2名はホッパー内の粒状肥料をフレコンバックに詰め込む作業を行っていた。同僚の携帯電話に被災者から電話があり、同僚は被災者が何も話さないため周りを見たところ、ホッパー出口から被災者の足が見えたため、救出して病院に搬送したが、翌日死亡した。	418	1	30～ 49
2007	9	9 ～ 10	圧力容器（重量14t、台座フレームの寸法7.5m×2.5m）の輸出のための梱包作業中、底板のパレット（重量2t）と台座フレーム付き圧力容器の四隅をボルトで仮止めした後、クレーンで床から80cm程度つり上げ、パレット底部からインパクトレンチで本締めしようとしたところ、インパクトレンチが左回転したためにボルトが緩んで抜け落ち、パレットが落下して被災者に激突した。	379	7	10～ 29
2007	5	12 ～ 13	倉庫内において、フォークリフト（最大積載荷重1.8t）を使用し段ボール箱入り商品パレット（上段16箱、下段18箱、1箱約3kg）を置き場に運搬作業中、上段の1箱が落下しそうになったため、フォークリフトを停止しマストの間に立って手直ししようとした際、当該1箱が操作レバー上に落下したため、マストが傾きマストとヘッドガードにはさまれた。	222	7	30～ 49

2007	5	20 ～ 21	事業場内において、日勤を終え帰宅途中の作業員（被災者）が、夜勤中の他の作業員が運転するフォークリフト（積載荷重6 t）に後方から走り寄ったところ、フォークリフトの左後輪にひかれた。	222	7	10～ 29
2007	4	16 ～ 17	被災者は5階冷凍庫から荷をリーチフォークリフトを使用して、エレベーターに積む作業をしていた。荷を積んでいないリーチフォークリフトを運転中、エレベーターに後部から激突し、衝撃によりエレベーターの戸（左右開き）を昇降路内に押し込み、その結果、戸にできた隙間より昇降路内へ落ち、1階停止中のエレベーター搬器天井に墜落した。	222	1	100 ～ 299
2007	9	6 ～ 7	被災者は、単独で、各種飲料食料を出荷するための空のプラスチック製のかご（通称バットと呼ぶ）の整理整頓作業中、穴の直径90 cm、深さ約8 mの雨水集水升に升の蓋とともに落下した。雨水集水升の穴の上には、コンクリート製の蓋が常時置かれている。この蓋は同じ大きさをした2つの半月状に分離されている。	414	1	10～ 29
2007	8	16 ～ 17	当日、同僚と倉庫内でホームセンター店舗の各種商品の仕分け作業を行っていた。勤務終了時間近くになって、同僚が被災者の姿が見えないことに気がついて捜したところ、倉庫内のトイレの中で意識のない被災者を発見した。なお、災害発生地の当時の気温は30.1℃であった。	715	11	50～ 99
2007	10	14 ～ 15	被災者はトレーラーに積載されたコンテナ内部で積荷（木製杭1束10本、約6.5 kg）をパレット上に合計70束（パレット重量を含め500～600 kg）移し替え、一人で積荷をパレットごと搬送ローラー（非駆動）でコンテナ後方に移動し、荷卸しするため地上で待機中のフォークリフト運転手に声を掛けたが不在であり、地上に降りたところ、パレットと積荷が落下して下敷きとなった。	611	4	10～ 29
2007	4	1 ～ 2	作業員が社有車である乗用車を運転し同僚3名を乗せ帰宅途中、T字路で右折したところ、反対車線を直進してきた乗用車に側面から衝突され、同乗者が死亡した。	231	17	50～ 99
2007	4	1 ～	作業員が社有車である乗用車を運転し同僚3名を乗せ帰宅途中、T字路で右折したところ、反対車線を直進してきた乗用車に側面から衝突され、同	231	17	50～

		2	乗者が死亡した。			99
2007	4	1 ～ 2	作業者が社有車である乗用車を運転し同僚3名を乗せ帰宅途中、T字路で右折したところ、反対車線を直進してきた乗用車に側面から衝突され、同乗者が死亡した。	231	17	50～ 99
2006	10	9 ～ 10	高さ約90cmの作業台上の建屋天井にある蛍光灯（高さ約4m）を取り替えるべく、付近にはしごを設置し被災者が登り、他の労働者がはしごの足元を押さえ作業を行っていたところ、当該蛍光灯が落下した。これを避けるためはしごを押さえいていた労働者が退避したため、はしごが滑り、はしごと共に墜落した。	371	1	10～ 29
2006	9	10 ～ 11	被災者は、前日に降った雨により製品倉庫内に保管してある出荷前の商品が雨漏りによる影響がないかを確認するため、朝礼終了後一人で製品倉庫へ向かい、7月に補修した製品倉庫の屋根の状況を確認しようと3階の非常口から屋外のベランダに出て、補修箇所の外観を確認していたところ13.3メートル下の構内通路面に墜落した。	418	1	1～9
2006	6	15 ～ 16	廃業した印刷所（木造モルタル3階建て）の印刷機等を撤去・搬出する作業を5社10名で行っていた。1階で空ドラム缶（エンジンオイルが入っていたもの、内容量200リットル）の蓋の部分を、ディスクグラインダー（手持ち式研磨機）で切断していたところ、火災が発生し、短時間に燃え広がり、3階で作業をしていた3名が逃げ遅れ被災した。	159	16	1～9
2006	6	15 ～ 16	廃業した印刷所（木造モルタル3階建て）の印刷機等を撤去・搬出する作業を5社10名で行っていた。1階で空ドラム缶（エンジンオイルが入っていたもの、内容量200リットル）の蓋の部分を、ディスクグラインダー（手持ち式研磨機）で切断していたところ、火災が発生し、短時間に燃え広がり、3階で作業をしていた3名が逃げ遅れ被災した。	159	16	1～9
2006	9	18 ～	被災者は、当日目的地までワゴン車を運転し客先に荷物を届け、戻るため高速道路を走行していたところ、前方を走行していた乗用車がガイドロープ支柱に衝突し、その弾みで中央分離帯のガードレールにぶつかり停止し	221	17	10～ 29

		19	た。被災者は左車線に車を止め、乗用車の運転席に近づいたところ、後方から来た4トントラックにはねられた。			
2006	9	5 ~ 6	夜勤終了時間（午前6時）が近づき、フォークリフトに充電を行うため、充電場所に向かう際、シャッターを通常はリモコン操作で上げているが、リモコンを持っていなかったため、フォークリフトをバックさせながらフォークリフトから身を乗り出して、手でシャッターの操作をしようとして、壁とフォークリフトのヘッドガードの支柱にはさまれた。	222	3	10~ 29
2006	8	0 ~ 1	T字路で、被災者が歩行中に丁字路を右折しようとして前進してきたフォークリフトにひかれた。	222	7	10~ 29
2006	5	9 ~ 10	構内において、手前に2段の荷（木材）の上段を一束取ろうとしてフォークリフトの爪を入れて持ち上げ、後方に下がったところ、後列に積んであった荷が崩れ、隣で検品していた被災者に当たった。	611	4	1~9
2006	4	8 ~ 9	国道をトラックで走行中、中央分離帯を越え下り線に進入し、下り線走行中の乗用車と衝突した。	221	17	50~ 99
2006	3	12 ~ 13	倉庫内において、フォークリフトを運転し、パレット積みした商品を出荷場へ運ぶ作業中、高さ94センチメートルのプラットホームからフォークリフトと共に地面へ転落した。	222	1	1~9
2006	1	13 ~ 14	午後1時から建物の2階でピッキング作業（配送伝票による荷出し作業）をしていた被災者が、1階の製品を取りに行くためエレベーター（搬器の扉なし）を使用して1階へ行き、出荷のための荷を台車に積み、2階へ行くためエレベーターを使用したところ、搬器と昇降路にはさまれた。	214	7	50~ 99
2005	1	16 ~ 17	パレットのはい積み作業中、フォークリフトのマストとヘッドガードの間に挟まれた。	222	7	30~ 49
		2	トラックで国道を走行中、歩行者用信号が赤になり前の車両が止まったと			10~

2005	9	～ 3	ころに追突し、ハンドルと座席との間に挟まれた。	221	17	29
2005	3	～ 16	フォークリフトで構内道路を走行中、下りスロープとなった構内道路の路肩に寄り過ぎたため、フォークリフトごと40cmの段差を転落、横転したフォークリフトの下敷きとなった。	222	1	10～ 29
2005	11	～ 17	作業場所に徒歩で向かう途中、走行中のフォークリフトの爪に引っ掛けられ、左前輪でひかれた。	222	6	300 ～ 499
2005	12	～ 9 10	天井クレーンを使用して2段重ねに置いてある鋼板コイルの移動作業中、下段に並べたコイルが滑動したため、上段に積んでいたコイル（重さ13トン）が斜め方向に落下、玉掛けの補助をしていた被災者は、落下したコイルと背後に並べていたコイルとの間に挟まれた。	611	7	30～ 49
2005	6	～ 14 15	トラックの荷台で計量器の積込み作業中、バランスを崩しコンクリート地面に転落した。	221	1	1～9
2005	3	～ 9 10	フォークリフトで篩（ふるい）網を床に下ろす作業中、篩網の上に乗る、運転手に合図を送っていたところ、3m下のコンクリート床に墜落した。	418	1	50～ 99
2004	2	～ 14 15	トラックコンテナからホッパーに魚粉を入れる作業を行うため、詰所から作業場所へ向かって岸壁を歩いているときに、海中に転落した。	999	10	30～ 49
2004	10	～ 16 17	内面仕上げのために作業場内に仮置きした鑄鉄管の位置を微調整しようと、他の作業者がトラバースで約30cm移動させたところ、被災者が当該鑄鉄管と隣の作業台に置いてあった鑄鉄管の間に挟まれた。	521	7	50～ 99
2004	11	～ 6 7	自動販売機で飲み物を購入するため、駐車スペースにトラックを駐車し、道路の反対側に渡るため横断歩道を歩行中、走行してきた大型トラックにはねられ、さらに後続のキャリアカーにもひかれた。	221	6	30～ 49

2004	6	9 ~ 10	建築資材（H鋼、300×300×6000mm、0.6 tを2本横に繋げたもの）をト レーラーからクレーンで荷下ししていたが、1つ目を下ろす際、H鋼間に 敷く番木がなかったため、階段状の3段目に仮置きした状態で番木を探し に行った。その後、被災者が番木を見つけて戻って来たところ、突然、仮 置きしていたH鋼が崩れ落ち、被災者を直撃した。	521	4	1~9
2004	1	15 ~ 16	マフラー工場レイアウト変更工事において、バフ機を1階から2階へ移設 し、ベースの調整のためバールで押し上げたところ、ベースの調整を行っ ていた被災者にバフ機がバランスを崩して転倒して、被災者が挟まれた。	612	5	1~9
2004	3	14 ~ 15	フォークリフトにより荷の積み込み作業を行っていたところ、フォークリ フト上の荷が崩れ、一時運転席を離れて、フォークリフトの近くにいた被 災者に落下した。	611	4	1~9
2004	11	6 ~ 7	搬入されたコンテナから製品を荷下ろしする作業の準備でフォークリフト を使用し、専用パレットの用意をしていたところ、専用パレットの手すり が外れていたため、当該手すりを運転席に乗り直していたところ、右足が マストのレバーを押し下げ、被災者がマストとヘッドガードに挟まれた。	222	7	1~9
2004	4	7 ~ 8	50ccバイクで、市道を走行中転倒した。	231	17	10~ 29
2004	10	9 ~ 10	倉庫内の出荷作業で、製品を積むパレットの上に乗って、フォークリフト で3mほどの高さに昇り、製品棚から製品を取り出す作業を行っていたと ころ、パレット上から3m下の床に転落した。	222	1	10~ 29
2004	9	15 ~ 16	バッテリー式フォークリフトを使用して、倉庫内でパレットに乗った荷 （ペーパータオルが箱詰めされたもの）を荷置き作業をしていた時に、パ レット二段積みの上部が荷崩れした。このため被災者は運転席前に乗り、 ヘッドガードとマストの間からこれを直そうとしたが、この時、誤って ティルトレバーに触れたためにフォークリフトのマストが傾斜し、ヘッド ガードとマストとの間に挟まれた。	222	7	1~9
			駐車場において、コンテナトレーラーのトラックから降車して、トラック			

2003	12	15 ～ 16	ヘッド部とコンテナを搭載したシャーシの連結部の取外しを行っていたときに、トラックヘッドのサイドブレーキをかけていなかったため無人のトラックヘッドが動きだしたので、これを止めるためトラックヘッドに飛び乗ろうとして隣に停車していたコンテナとトラックヘッドとの間にはさまれた。	221	7	1～9
2003	10	8 ～ 9	トレーラーに積まれてコンテナ蔵置場に搬入されてくるコンテナに蔵置位置をチョークで書き込む作業を行っていたときに、先に搬入を終えて蔵置場から公道へ出ようとしていたトレーラーに牽引された空シャーシの後部と作業中のコンテナとの間にはさまれた。	221	7	10～ 29
2003	7	8 ～ 9	コンテナで搬入してきた輸入合金鉄石（袋詰め）を倉庫内に降ろすための準備作業として、ショベルローダーを倉庫内にバックで進入させていたとき、倉庫内に停車していたフォークリフトに当たりそうになったので、フォークリフトの運転手が止めようとしたがショベルローダーの運転者が気付かず、ショベルローダーに激突された。	141	6	10～ 29
2003	3	14 ～ 15	船舶用緩衝材の金型保管ヤードで、天井クレーンで金型（鉄製、長さ3.8m、幅1m、高さ1.1m）を2段に重ね置いたのち、次の荷役のため外した玉掛けワイヤを巻き上げていたところ、ワイヤが金型の蓋（質量約2t）に引っかかったため、ずり落ちて退避しようとしていた者に激突した。	211	4	10～ 29
2003	2	12 ～ 13	製鉄所の倉庫で、最大荷重8tのラムフォークリフトで金属コイルを搬入していたときに、倉庫内で作業していた他の労働者をラムフォークリフトではねた。	222	6	10～ 29
2003	1	10 ～ 11	フォークリフトで、機械装置の一部の荷（高さ約265cm×幅約85cm×奥行約80cm、質量約900kg）をトレーラー上のコンテナに積込中に、荷がバランスを崩して横転したので、コンテナ内で作業の指揮をしていた者が倒れた荷を避けようとしてバランスを崩し、地上に転落（高さ約70cm）した際にアスファルトの地面で頭部を強打した。	221	1	30～ 49
		16	印刷用ロール紙（高さ765mm×直径1085mm、質量405kg）をトラックから自動倉庫の搬入口にフォークリフトで搬入中、印刷用ロール紙の搬入			

2002	12	～	口へのセットが完全では無かったたのでその状況を確認、調整に行ったと	611	4	10～
		17	きに、高さ約1.5mの搬入口から落下した印刷用ロール紙の下敷きになっ			29
			た。			
2002	11	～	ガソリンスタンドで小型タンクローリー（3k?）に軽油を入れて走行中、	221	17	100
		14	右カーブで車体のバランスを崩して横転し、そのままガードレールを破っ			～
			て道路脇の溝（深さ約3m、幅約6m）に車体ごと転落した。			299
2002	10	～	廃材の入った袋をフォークリフトで原料倉庫に運び、空袋を原料倉庫脇の	222	2	50～
		8	空袋置場に持って行くため地上から2.6mの高さに上げたフォークに空袋			99
		9	を掛けて走行中、同様に空袋をフォークに掛けて原料倉庫内から後進して			
			きたフォークリフトの左側マストにフォークリフトの左側のフォークが接			
			触して転倒し、地面とサイドガードとの間に腰部を挟まれた。			
2002	6	～	物流センター構内で、バッテリー式フォークリフト（最大荷重0.9t）を運	222	1	1000
		8	転中、高さ1mのプラットホームからフォークリフトとともに後方）から			～
			墜落し、地面とフォークリフトのヘッドガードとの間に挟まれた。			9999
2002	5	～	4人が乗った軽自動車で行中、センターラインをオーバーして前方から	231	17	10～
		17	来たクレーン車と正面衝突し、後部座席に乗っていた者が車外へ投げ出さ			29
			て死亡し3名も重軽傷を負った。			
2002	3	～	倉庫内で、フォークリフを使用して18パレットのうち17パレット目をエ	222	1	10～
		13	レベーターに搬入したのち倉庫内をバックで走行してプラットホームまで			29
		14	来たときに、プラットホームから約1m下の地面にフォークリフトととも			
			に転落し、地面とヘッドガードとの間に頭部を挟まれた。			
2002	6	～	1.5tトラックで国道を走行中、緩やかな下り坂でセンターラインをオー	221	17	10～
		9	バーし対向のトラックと正面衝突した。			29
		10				
2002	1	～	事務所の引越しでビル内に荷物を搬入するため、コンビテナー	362	5	100
		11	（84×64×高さ138cm、パイプ製天井無しのカゴ型人力運搬機）に長さ			～
			180cm、質量約20kgの机天板16枚を載せて2名で運搬中、36cmの段差部			

		12	分に長さ242cm、厚さ2cmの板を架けたスロープ（傾斜角約10度）の個所でコンビテナーが後方に転倒し、後方で押していた者が下敷きになった。			299
2002	3	16 ～ 17	倉庫内でフォークリフトを用いて荷出し作業中、高さ3.2mの運転席から転落し頭部を強打した。	222	1	50～ 99
2002	2	17 ～ 18	事業場の岸壁から約15m離れたの海面に浮かんでいるところを同僚が発見し、消防隊が救助しようとしたがろ海中に沈み、2日後に水死体で発見された。	713	10	10～ 29
2001	12	0 ～ 1	国道の路肩に停車していたローリー車が道路の傾斜のため後方に動き出し、後方から走行してきたトラックに追突され路肩の脇にいたローリーの運転手が死亡した。	221	17	100 ～ 299
2001	12	16 ～ 17	コンクリート工場で直径500mmのヒューム管の5段目のはい積み作業を行っているときに、高さ約2.7mの4段目のヒューム管から足を踏み外して墜落した。	611	1	50～ 99
2001	12	17 ～ 18	作業場で倉庫荷物入力業務に従事していた者が、事務所に行くため歩いていたところ、走行してきたフォークリフトに左足を左後輪にひかれて転倒し、地面に後頭部を強打した。	222	6	10～ 29
2001	10	15 ～ 16	ユーカリのチップを搬入しトラック(19.4t)のダンパー(トラックごと傾斜させ、チップをホッパーに投入する機械)で荷降ろし作業を行っていた者が、ホッパー内のチップに埋もれた状態で発見された。	522	5	50～ 99
2001	10	8 ～ 9	倉庫で、当日出荷予定の製品をピックアップトラックで移動する作業を行っていたときに、ラック4段目(高さ約5m)から荷とともに墜落した。	222	1	1～9
2001	7	6 ～ 7	トラックで自動車道を走行中、対向のタンクローリーがセンターラインを超えて乗用車に衝突し、さらにその後にはいたトラックに衝突してきた。	221	17	30～ 49

2001	4	13 ～ 14	閉鎖した紡績工場内から紡績機械を搬出するため、同僚と2人で人力式ジャッキを使用し紡績機械をジャッキアップしていたときに、機械が倒れその下敷きになった。	361	5	1～9
2001	2	18 ～ 19	運搬する鉄製の部品柵(重さ145kg)を空の状態に2段に積み重ね、1.5tフォークリフトに乗せて倉庫軒下から倉庫内へ引き入れる作業を行っていたところ、2段目の柵が崩れ落ちて下敷きになった。	222	5	30～ 49
2000	12	10 ～ 11	仮り組みされた移載機(質量450kg)を梱包するため、同僚と2人でホイスト式天井クレーン(吊上げ荷重2.8t)で相吊りで横行移動していたときに、荷を吊っていたベルトスリングが荷から外れたため、落下してきた荷に頭部を直撃された。	372	4	10～ 29
2000	1	13 ～ 14	物流センターの倉庫内でダンボールの抜き取り作業を行うため、1.5tのフォークリフトのパレット上で、高さ4mの位置にあるダンボール(重量:32kg)をパレットに移そうとしたときに、パレットから3m下の床面に墜落した。	222	1	50～ 99
2000	12	6 ～ 7	印刷物を運ぶため4tトラックで国道を走行中、旧国道へ入る交差点で右折車線で信号待ちをしていた16tタンクローリーに追突し、その時タンクローリーから流失したガソリン4000ℓに引火して2台とも炎上、トラックの運転手が焼死した。	221	17	30～ 49
2000	11	10 ～ 11	眼鏡レンズとコンタクトレンズの配達のため自転車で走行中、国道交差点を青信号で横断中に、左折してきた大型トラックに巻き込まれた。	221	17	10～ 29
2000	12	16 ～ 17	製品保管ラックの最上段(高さ334cm)に積み上げられたパッケージケース(ダンボール箱、質量約12～13kg)を出荷するため、フォークリフトを柵の横に停車させてパレット最上段へ昇って一番上のケースを降ろしているときに墜落した。	419	1	10～ 29
2000	12	10 ～ 11	スリットコイル(径1400mm)にビニールシート掛けをして作業終了後に、コイル上から飛び降りたときに着地に失敗して後方へ転倒した。	416	2	100 ～ 299

2000	7	10 ～ 11	ドラムクランプを装着したフォークリフトで、空のドラム缶をトラックの荷台から空缶置場に移動、整理する作業中に、フォークリフトの操作を誤ってリフトとともに転倒しリフトの屋根と地面との間に挟まれた。	222	2	10～ 29
2000	1	0 ～ 1	190Nリッドヒンジアウターライン設備(1. 2t)をレッカーで2階に上げ、ハンドリフトでジャッキアップして3台のチルローラーに移し替えて移動させようとしたときに、設備のバランスが崩れ、1名は横に逃げたがもう1名は支えようとして足を滑らせ前に倒れ下敷きとなった。	159	6	1～9
2000	4	14 ～ 15	中2階の作業場で出荷する品物の分別作業を行っているときに、在庫のない品物の伝票を1階に戻すためプラスチック製の籠に伝票を入れて手で釣り下げていたところ、後ろからきた手押し式の籠車(荷運び用台車)に押され1階に転落した。	414	1	10～ 29
1999	11	9 ～ 10	積荷のドロマイドを陸揚げするため、船倉内においてブルドーザー(機体重量5t)でドロマイドをかき寄せる作業しているときに、ブルドーザーをハッチの下まで入れ過ぎたため、ハッチとブルドーザーの運転席のレバーとの間に挟まれた。	141	7	300 ～ 499
1999	9	10 ～ 11	吊上げ荷重35tの移動式クレーン(トラス構造)のジブ先端に上がったときに、約16m下の路面に墜落した。	212	1	30～ 49
1999	9	21 ～ 22	貨物ターミナルで、列車のダイヤが乱れていたため隣の4ホームの作業を手伝い、作業終了後、持場へ戻るため線路を横断していたときに、進入してきた列車にはねられた。	223	18	50～ 99
1999	8	8 ～ 9	会社に出勤のため会社のワゴン車で走行中、対向車線の大型トレーラーが中央分離帯の鉄柵を破り飛び出してきて正面衝突し、後部席の者が死亡、他の同乗者3人が重軽傷を負った。	221	17	1～9
1999	8	7 ～	空コンテナ(重さ約1. 5t)を清掃するためサイドシフト付カウンタバランスフォークリフト(最大荷重12. 5t)で移動作業中、移動させるコンテナの上面左後部が左隣に2段積みしていたコンテナの上段底面右後部に接触し	611	4	30～ 49

		8	ていることに気付かないままリフトアップしながら後退させたため、上段のコンテナ落下し、清掃作業をしていた者がコンテナの下敷きになった。			
1999	4	18 ～ 19	資材置場で荷を4tトラックに積み込み、荷に上ってワイヤーロープで固縛していたときに、約3.6m下の地面に墜落した。	221	1	10～ 29
1999	7	9 ～ 10	冷蔵倉庫の製品出荷用プラットホームにおいて、貨物自動車に積み込む製品を荷役するため空荷のリーチフォークリフトを運転中、方向転換をしようとして倉庫壁部の火災警報ボックスに腰部を激突させた。	222	3	1～9
1999	1	14 ～ 15	フォークリフトで運搬する荷の場所を確認するため、他のフォークリフト運転者を呼び止め、フォークリフト横で伝票を示していたところへ、10tトラックが後進してきて10tトラック荷台とフォークリフト車体との間に挟まれた。	221	6	1～9
1999	4	10 ～ 11	フォークリフトで梱包した合板をはい積みしてフォークリフトを後進させようとしたときに、最上部の合板が崩壊して運転席に落下し、ヘッドガードが押しつぶされた。	611	5	50～ 99
1999	3	10 ～ 11	倉庫から商品の品出し、ピッカーに乗って床から2.8Mの高さまで上昇し、商品棚の3段目に置いてあった日本酒のビンを取り出す作業を行っていた1階の床に転落した。	222	1	10～ 29
1999	3	21 ～ 22	2名で壁の養生材の撤去作業を開始し、ベニヤ壁に立てかけてあったパーティションの部材を移動しようとしたときに、ボードが倒れかかり2名では支えきれないため、1名は退避したが1名は転倒し、コンピュータ搬入用に設置したスロープの角に頭部を強打した。	529	5	100 ～ 299

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.html(職場のあんぜんサイト)

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202311_01.htmlに戻る。